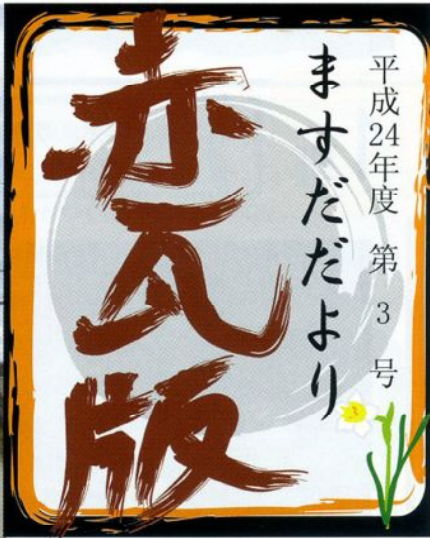


平成 24 年度 益田市景観ワークショップ

2012. 12. 15 実施



制作：近畿大学建築学部都市計画研究室



平成 24 年度 第 3 号

この『ますだだより 赤瓦版』は、平成 24 年度益田市景観ワークショップの内容や感想などを、参加者のみなさんにお伝えするための瓦版です。

はじめに

平成 24 年 12 月 15 日（土）に、平成 24 年度益田市景観ワークショップ「第 3 回 漁村地区」を開催しました。今年度のワークショップは地域別に行っていますが、今回は密集した漁村のまちなみ、海に浮かぶ衣毘須（えびす）神社、東山魁夷画伯の絵のモチーフとなった猫島などの地域資源が残る戸田町・小浜町にて開催しました。



平成 24 年度 益田市景観ワークショップ 第 3 回のテーマは漁村地区！

日 時■ 12 月 15 日（土）
13:30～16:30

参加者■ 26 名（+ 研究室スタッフ 8 名）

会 場■ 小野地区振興センター

🌸 当日のプログラム 🌸

1 レクチャー

良い景観を守る・つくるための事例紹介。



2 まち歩き

各班で一時間程度、戸田町・小浜町を散策。



3 テーブル ディスカッション

写真をもとに魅力・課題を発掘！



4 全体発表

たくさんの方に発表していただきました。



はじめに、脇田教授から今回のワークショップの趣旨説明がされました。次に学生が「良い景観を守る・つくるための事例紹介」を行いました。その後、班ごとに自己紹介をし、まち歩きに出発です。

まち歩きでは、「戸田町・小浜町にふさわしい家」「戸田町・小浜町らしい風景」「海岸から見える家なみ」「いい景観だと思うまちなみ」「その他」という 5 つのミッションを記したシートをもとに、ポラロイドカメラと写真額縁を使って、各ミッションの写真を 2 枚程度、話し合いながら撮りました。天候は、あいにくの雨でしたが、二階の屋根が低くなっている「厨子二階（つしにかい）」と呼ばれる様式の住宅や、国道 191 号線から見下ろす赤瓦の美しいまちなみなどを見ることができました。

グループディスカッションでは、写真を見ながら魅力と課題を考えました。「建物に関する提案」と「住民の方達が自分たちでできる活動の提案」の二つの視点から、戸田町・小浜町らしい景観を守るため、つくるための提案を考えていただきました。

全体発表では、各班で出た意見や提案を、参加者の方に発表していただきました。提案に、「^{えびす}衣毘須神社を山陰のモンサンミッシェルとしてアピールしよう」や「かつての旅館を資料館にしよう」などのユニークなものがありました。加えて、地元の方の景観に対する想いや、参加者から「初めて戸田町・小浜町をまち歩きしたが、この素晴らしい景観を今後も残していけるとよい」といった意見を聞くことができました。

最後に、脇田教授からグループディスカッションのまとめがあり、ワークショップは閉会しました。

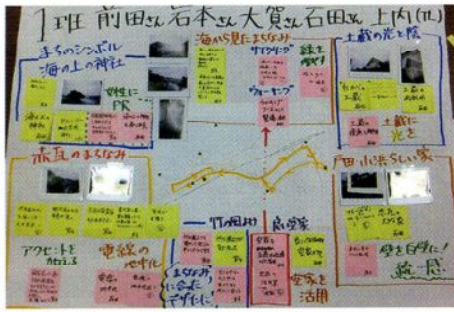


1班

メンバー

石田 貞 岩本 大賀敏
前田 上内 (TL)

*TL: テーブルリーダー



山陰のモンサンツシエルとして衣毘須神社を女性にPRしよう!

発見

- ・海の上の衣毘須神社が良い
- ・明円寺からの景色が良い
- ・赤瓦のまちなみはこのままでいい
- ・電線が邪魔だと思ふ
- ・農村部と違い、家が密集している所が良い
- ・土蔵が再利用されている
- ・まだ住めそうな空き家が多い
- ・竹製の風よけが気になった
- ・海沿いから見る白壁、赤瓦がマッチしている

提案

- ・屋根の色、壁に統一感を!
- ・土蔵の復元と再利用
- ・塩害に強い植物を植え、緑を増やす
- ・海沿いをウォーキングコース、サイクリングコースとして整備
- ・空き家をお茶飲み場・海の家として活用
- ・竹の風よけを地区のシンボルに!



衣毘須神社のアピール方法と海岸沿いの活用についての話が特に盛り上がりしました。

海岸沿いをウォーキング・サイクリングコースとして整備

壁は白壁にまちなみに緑を加えアクセントをつけよう

2班

メンバー

河野 堀部 宮内
海邊 梶本 田中 (TL)

*TL: テーブルリーダー



海岸線にベンチを設置、船小屋を休憩所に再利用!

発見

- ・住民がつくった石垣とツワブキ
- ・しけた海の風景が良い
- ・海岸線に沿って長く歩ける道がある
- ・低い建物が多く、建築形式に統一感がある
- ・赤瓦のまちなみが美しい
- ・漆喰壁の白が、海岸線とマッチしていた
- ・塩害のため、緑を取り入れにくい
- ・山と海の間にあるまちなみ、風景が良い
- ・2階が低い「厨子二階」の建物が多い

提案

- ・特徴ある家を「小浜歴史資料館」にする!
- ・緑を植える代わりにツワブキを増やす
- ・海岸線にベンチを設置
- ・船小屋の活用
- ・釣り人などの来訪者に、おもてなしの心を伝える物を置く
- ・電柱、電線を整理してもらう



住民にとっても訪問者にとっても魅力的なまちなみにするための方法を話し合いました。

来訪者におもてなしの心を伝えるための大漁旗、標示などを設置

かつての旅館の建物を資料館にして再利用する

3班

メンバー

藤岡 宮内 長田
加藤 森本 (TL)

*TL: テーブルリーダー



～行政と協働でまちのルールづくり～
助成金を活用して赤瓦の普及

発見

- ・海の景観がきれいで良い
- ・海の中の宮、衣毘須神社
- ・昔のまま家並みが残っている (小浜)
- ・小浜に残る昔の豪家のつくり
- ・赤か黒で瓦を統一できれば良い
- ・駅前の家が屋根の色、壁の色がばらばら
- ・新しい家はほとんど赤瓦を使っていない
- ・電線が赤瓦の景観をこわしている
- ・庭木があり安らぎを感じる家並み

提案

- ・空き地に公園を
- ・地域ぐるみでの海岸清掃
- ・海の景観を活かした釣り大会などのイベントの開催
- ・海水浴シーズンにイベント企画
- ・衣毘須神社の例大祭を活用したイベントの開催 (ライトアップ)
- ・景観を保つため、住民と行政との協働でまちなみのルールづくり
- ・赤瓦の助成金制度を広く認知してもらうためのアピール



赤瓦で統一された家が多いので、「せっかくなので集落全体で統一できればいいのに」という意見が多く出されました。

～イベントで活気のある町に!!～
・釣り大会
・みんなで海岸の掃除
・衣毘須神社ライトアップ

空き地に公園を整備

4班

メンバー

牧原 大賀 石田里
小原 中尾 小川 (TL)

*TL: テーブルリーダー



皆で家を知ろう

- ・歴史的な家屋の研究
- ・見学会をする

まずはルールづくり

- ・赤瓦・白壁・木製の
建具で統一する

駅を中心とした まちなみの整備

発見

- ・海と赤瓦の風景がきれい
- ・漁村の家は間口が狭く、奥行きが長い
- ・路地にゴミが落ちていない
- ・門や窓枠が木でできている
- ・半農半漁の風景が伺える
- ・黒瓦や太陽光パネルがまちに合っていない
- ・人の目に焼きつく衣毘須神社がある
- ・立派な家屋は漁村が栄えていた昔のなごりである
- ・緑のバリケードが気になる

提案

- ・駅を中心としたまちなみの整備
- ・できるだけ木製の建具を使う
- ・修景のための補助金を出す
- ・屋根を赤瓦で統一する
- ・天然素材や自然色を使ったバリケードに変える
- ・歴史的な家屋の研究をする
- ・皆で家屋の見学会をする
- ・夏の海水浴は人がくる様子が伺えない→PRする



皆さん、衣毘須神社にきぎ付けでした。衣毘須神社を中心にまちを発展できたら・・・との声が多かったです。

5班

メンバー

友重 大賀満 島川
大賀章 渡辺 西田 (TL)

*TL: テーブルリーダー



景観モデル漁村地区を 目指す

駅は町のシンボル

- ・駅のお色直し
- ・町のコミュニティとして活用

蔵・石垣の マップをつくらう

発見

- ・屋根は瓦が多いが外壁はバラバラ
- ・駅の屋根の色が青色でミスマッチ
- ・蔵がある家が多い
- ・石垣と蔵の一体感が良い
- ・海岸線からの衣毘須神社が良い
- ・荒波の風景が良い
- ・集落の中にかつての牛小屋が隠れている
- ・海沿いの家の外壁は焼き杉、板張りのものが多かった

提案

- ・蔵マップ、写真集をつくる
- ・漁火で明るくして夜のイベントをする
- ・釣り大会開催!
- ・植栽で町に緑を
- ・駅の改修提案コンペをする
- ・まちの色を統一
- まちなみにルールをつくる
- ・風景を活かした個人喫茶を開く



各々の意見を持ち寄り、積極的なディスカッションができました。駅を活かしたコミュニティの話が盛り上がりしました。

6班

メンバー

高橋 上杉 堀
石橋 福島 松浦 (TL)

*TL: テーブルリーダー



地域住民の意識高揚

- ・スケッチ大会開催
- ・写真コンテスト開催
- ・展望台設置

地域の建物と生活空間を 大切に、次世代に継承

発見

- ・海を守る明神様 (衣毘須神社)
- ・赤瓦の屋根、漆喰の白壁
- ・焼き杉板を壁面に使用
- ・格式ある家が多い (家紋、蔵、門構、石垣)
- ・日本海と赤瓦の家並み、素敵な風景
- ・農と漁をつなぐ生活道と水路
- ・海に向かってまっすぐ伸びる小路

提案

- ・今の景観を残すためにグループ活動を行う
- ・ガイド付きまち歩き
- ・空家の活用
- ・スケッチ大会、写真コンテスト
- ・できるだけ赤瓦に統一
- ・まちなみを一望できる展望台設置
- ・密集した住居を守る防火対策
- ・テラポットは地域に必要な?
- ・水路の清掃



比較的戸田・小浜の近くにお住まいの方が多く、地域の方が地域の景観の素晴らしさを認識することの大切さを感じる結果となりました。

空家の有効活用 に向けた取組 地域外の人との調査 (Iターン・Uターン)

参加者の声

大変多くのものがある地域です。住民の方も情熱があり、今後の取り組みが楽しみです。

イメージだけではなく、実際自分の足で歩きまわって、見て感じる必要性を感じた。

景観への意識（住民の）をどう高めていくか、問題提起をしていただき、ありがとうございました。

本日のような取り組みをすれば、結構具体的な今後のあり方みたいなものができると思う。

まちなみを見直したが、結構歴史的な建物があるんですねー。あらためて感じました。

地元で生まれて、今回まで何も思わずに過ごしてきたが、大変参考になりました。

良いところは残していきたい。行政に協働を働きかけ、景観を統一していきたいです。

外部から見た若い人たちの有意義な意見は、今後わが町の活性化へ活用できそうである。

益田の漁村としては、家並みが赤瓦でよく統一された町であり、今後住んでみたいと思った地域であった。

自分が思っていたより、地区外の人々の目は私たちが思いもよらないところを取り上げて景観を見ていた。

悪天候の中でしたが、戸田町・小浜町を歩いて美しいと感じました。

初めて小浜町を歩きました。たくさんの蔵と、石垣があることにびっくりしました。

住んでいる人には気付かない魅力をもっと知る機会をつくってあげると良いと思います。

宝がいっぱいあって、古いまちを活かした気持ちの良いコミュニティのまちができると思いました。

色々意見がありました。少子高齢化の中で、難しい部分がありますが、1つ1つ乗り越える住民の努力が必要だと思う。

初対面の方と、ワークショップという共同作業を通じて、景観の勉強ができ、有意義な時間でした。

赤瓦と白壁、そして海、地域の景観を守り、次世代に継承していけたらと思います。自分としては防災、防火、自主防災の活動に力を出したいと思います。

海に近い環境を背景に、機能的な建物のつくり、構造がなされているということが分かりました。

家並み、まちなみは考えなくても良いが、花や緑などまちなみのところどころにアクセントが欲しい。そうすれば、住む人と訪れる人の双方に魅力・協力ができると思う。

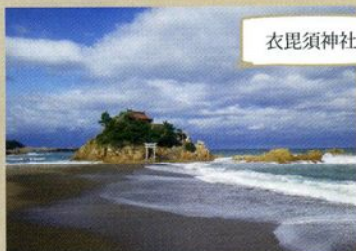
脇田祥尚教授

ワークショップのまとめ

^{えびす}衣毘須神社や東山魁夷画伯の絵のモチーフとなった猫島など、様々な地域資源をもつ戸田町・小浜町を歩きました。

後半のディスカッションでは、海岸線の美しさを再確認しました。海からみたまちなみの美しさが指摘されるとともに、^{えびす}衣毘須神社のライトアップや女性にPRしたいといったアイデアが出されました。まちなかでは、土蔵や石垣や路地の魅力や、赤瓦・白壁・木製建具からなる昔ながらの家々がつくるまちなみの価値が再確認されました。つりやスケッチ・写真の大会、海岸線ウォーキングやサイクリング、海水浴場整備のための自主清掃、空き家活用の一環でかつての旅館を赤瓦資料館にといった提案もありました。

この美しいまちの景観を後世に継承するためにも、まち全体の気運が高まっていくことを期待しています。



衣毘須神社



赤瓦・白壁・木造建具からなる昔ながらの家々



職人の技でつくられた石垣